

「東北メディカル・メガバンク」計画について

平成24年度予算案 : 5,607百万円
(うち復旧・復興対策経費 : 5,607百万円)
(平成23年度第3次補正 : 15,768百万円)

資料5

日本再生の基本戦略 ～危機の克服とフロンティアへの挑戦～ (平成23年12月24日閣議決定)

- 東北大学を中心とした東北地区の研究活動と連携した地域的な医療健康情報の蓄積・共有・活用
(東北メディカル・メガバンク計画)

東北大学を研究の中心とし、被災地の方々の健康・診療・ゲノム等の情報を生体試料と関連させたバイオバンクを形成し、創薬研究や個別化医療の基盤を形成するとともに、地域医療機関等を結ぶ情報通信システム・ネットワークを整備することにより、東北地区の医療復興に併せて、次世代医療体制を構築する。

◆本計画における取組内容◆

1. 地域医療情報連携基盤(厚労省・総務省)

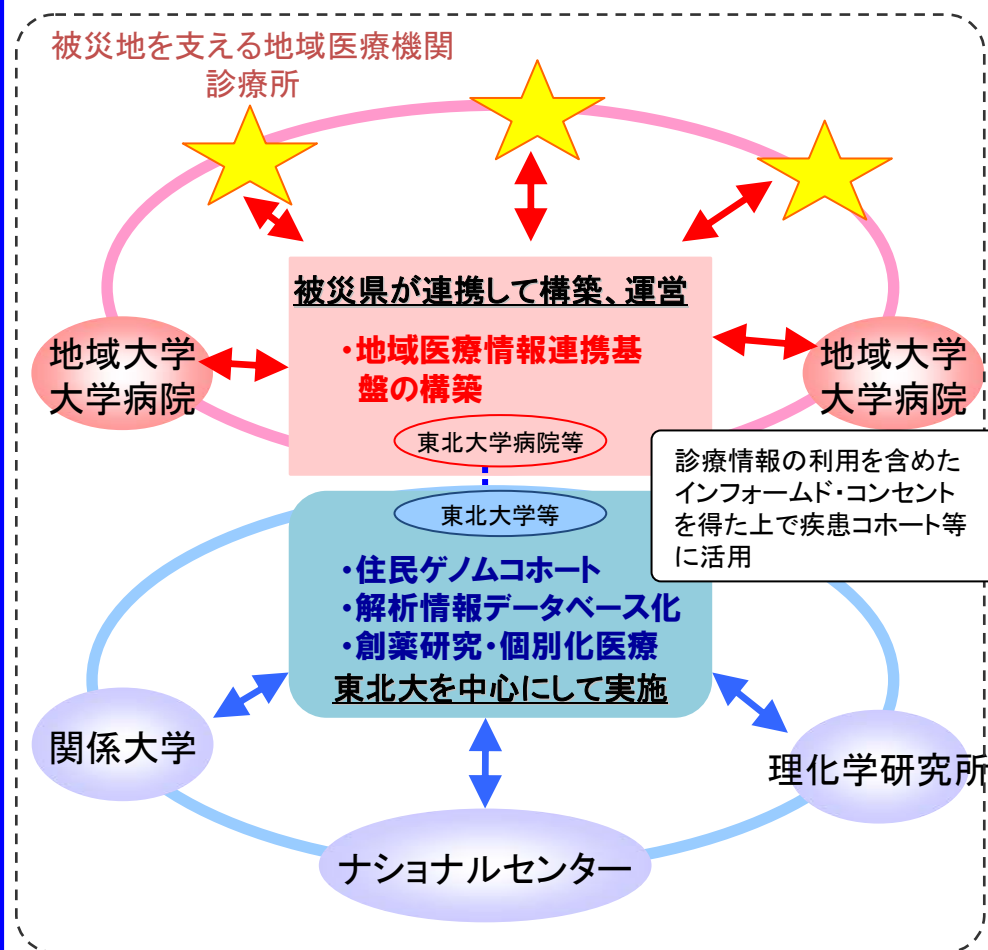
- ・地域の医療機関の医療情報等を標準的な形式で保存、ネットワークを通じて共有するための情報通信システムを中核医療機関、地方病院、診療所等に整備
- ・医療機関間を結ぶ情報通信ネットワークを併せて整備

2. 健康調査、バイオバンク構築、解析研究(文科省)

- ・被災地の住民を対象に健康調査を実施し、その結果を回付することで、被災地の住民の健康管理に貢献。
- ・遺伝子解析等の同意が得られた協力者から生体試料と健康調査で得られる健康情報等を収集し、大規模なバイオバンクを構築。
- ・収集された生体試料からゲノム情報等を収集し、健康情報、診療情報と併せて解析研究を実施。
- ・創薬研究や個別化医療に向けた基盤を形成。

大学を中心とした人材育成に関する取組と連携することで、本構想の実現を後押し

- ・大学が中心となる取組の中で、臨床研究コーディネーター(CRC)、データマネジャー等の臨床研究推進者、バイオインフォマティシャン等、本構想の推進に必須な人材を育成



「東北メディカル・メガバンク」計画の主な実施内容

第1段階：被災地を対象としたコホート調査の実施と15万人規模のバイオバンクの構築

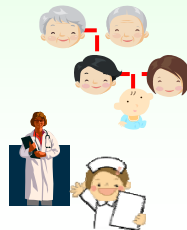
◆地域住民コホート(8万人規模)

- ・被災地沿岸部の住民を中心に、健康診断を実施し、結果を回付することで健康管理に貢献。
- ・生体試料を収集するとともに、定期的に健診を実施し、健康情報、診療情報等を収集。適切な時期に遺伝子解析の同意取得。



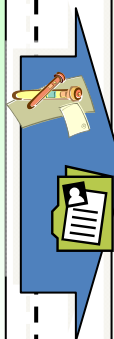
◆地域医療支援

- ・被災地に医師、CRC等の医療関係人材を派遣。コホート調査の中心的役割を担うとともに、地域医療現場での診療等、地域医療の支援も実施。



◆3世代コホート(7万人規模)

- ・宮城県全域を対象に、出生児、親、祖父母の3世代のコホート調査を実施。
- ・生体試料を収集するとともに、定期的に健診を実施し、健康情報、診療情報等を収集。適切な時期に遺伝子解析の同意取得。



◆バイオバンクの構築、解析研究

- ・地域住民コホート、3世代コホートで収集された生体試料、健康情報、診療情報等を東北大学で収集、保存し、バイオバンクを構築。
- ・生体試料からゲノム情報等を収集するとともに、健康情報、診療情報等と併せて解析を実施。
- ・他のバイオバンクと連携体制を構築し、ゲノム解析等を実施。



第2段階：バイオバンクを活用した次世代医療を実現するための研究の推進

◆個別化医療、創薬の実現に向けた研究の推進

- ・バイオバンクに収集された生体試料、健康情報、診療情報等を用いて、我が国の他のバイオバンクとも連携しながら、個別化医療等の次世代医療の実現を目指す研究開発を実施し、将来的に得られる成果を被災地の住民に還元することを目指す。
- ・また、得られた成果を活用した創薬等の研究開発を推進。



◆バイオバンクの更なる充実

- ・コホート研究における追跡調査を定期的実施し、健康情報、診療情報等を引き続き取得。

◆成果の共有

- ・研究計画等の審査を行った上で、他機関へ生体試料を提供し、ゲノム解析等で得られた成果も公開。